

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400360		
法人名	社会福祉法人 明生会		
事業所名	グループホーム悠		
所在地	福島県いわき市平赤井一の町62-1		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成27年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな住み慣れた地域で「その人らしさ」を大切に持っている力を発揮しながら、安心と尊厳のある暮らしが出来るよう取り組んでおります。

1. 理念を毎月職員会議の中で唱和し全職員が共有を図り、日々の支援の中での気づきを書きとめ、自分はどう変化したかを振り返りのアンケート調査を実施して、理念に沿った支援が行えるよう努めている。
2. 地域の公民館事業に参加したり、子供避難所として子供の見守りを行ったり、事業所周辺の清掃、ボランティアや中学生の体験学習の受入など、積極的に取組み地域との交流に努めている。
3. 利用者やその家族を、運営推進会議に積極的に参加を呼び掛けたり、アンケート調査を定期的実施して、意見や要望を把握して事業の運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人明生会の理念とグループホーム悠の基本理念を玄関に掲示し、日常において職員全員がその主旨を理解し実践につなげている。	法人理念と事業所の理念を事業所内に掲示し、毎月、職員会議の中で唱和し共有を図っている。また、日々の支援の中での気づきを書きとめ、自分がどう変化したかを振り返りのアンケート調査を実施して、理念に沿った支援が行えるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供避難の家に登録し地域の子供達に活用していただけるようにしている。近くの公民館の行事に参加させていただいたり情報を提供している。中学生の学習体験の受け入れ、子供神輿の訪問などがある。	毎月2回事業所周辺の清掃活動に取り組んでおり、子供避難の家に登録し事業所を開放したり、公民館行事や中学生の体験学習の受入をしている。また、散歩や買い物などを通して、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談の受け入れや中学生の体験学習の際に認知症への理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に開催しており、活動報告終了後に一人ひとりから意見や感想を頂いている。地域の方や家族からの意見を参考にし運営に活かすよう努めている。	運営推進会議は定期的に開催し、利用者状況や処遇状況など報告し、利用者、家族、外部委員から意見をもらい事業所の運営に活かしている。また、委員会の中で、駐在所員による講話やミニ勉強会、心肺蘇生法などにも取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに相談したり事業所の情報を提供したりと市の職員と連携をとっている。今年職員が消防署主催の応急手当普及員の講習を受けその件とAEDをいつでも利用できることを民生委員様と駐在様に伝えた。	定期的な書類の提出や看取りの取組に当たったの助言を求めたり、介護保険に関する情報を得るなど、市担当者との関わりを大切にしている。また、運営推進会議委員に市の介護相談員も加わり情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や中庭など自由に出入りできるようにしている。利用者の行動や行為を阻止しない取り組みをしている。職員を勉強会に参加させる。	職員は勉強会などを行い、身体拘束の具体的な行為と弊害について確認し、玄関の施錠を含め、身体拘束の無いケアに努めている。また、事業所内外を自由に出入り出来るよう見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して虐待について職員全員が理解し実行している。言葉掛けにも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ミーティングで取り上げ勉強している。国や市の広報を回覧し職員全員で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に十分説明し、理解、納得頂いた上で契約を結んでいる。ご家族の不安や疑問には、必要時にその都度説明し、同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や面会時、運営推進会議時に出席者全員に声を掛けを行い意見の汲み取りに努めている。	利用者及び家族に運営推進会議への参加を促したり、意見箱を設置し面会時間を利用して意見や要望を聞いている。また、家族アンケート調査を定期的実施して、出された意見や要望は、職員で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや勤務中に置いても職員の意見や提案が聞けるようにしている。又職員にアンケートを行いその後全員で検討する。	管理者は職員会議や日頃の関わりの中で、職員の意見や要望を聞き、それらを運営に反映させている。また、職員アンケートを実施して、意見や要望をとりまとめ、その結果を職員で話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の管理者会議で十分に話し合いをもうけ、各自の状況や実績に合わせた環境把握に努め整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量を見定め、その職員に必要なと考えられる外部研修に参加していただき、参加後は、全職員に報告し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修、大会をはじめ色々な研修に参加し交流を深めながらサービスの向上を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活暦や入所に至るまでの経緯を職員全員が理解し、共有する。利用前に面談を行い本人、家族の要望を確認して安心して貰えるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の状況を理解し、共感しながらそれぞれの思いを受け止め不安内容や要望を丁寧に確認して関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入所が難しい場合などは、現在直ぐ必要なサービスを一緒に検討するなどして対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護するだけではなく、人生の先輩として学び、本人を中心とした、本人が安心して共に生きる仲間として支えあう関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には、日々の暮らしの様子をお伝えし、意向も伺い参考にしている。又状況の変化の度に家族と情報を共有し、支え続けていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや買物、美容院の利用など慣れ親しんだ地域へ出掛けたり、古くからの知人が遠慮なく面会に来られ寛げるよう配慮し、支援している。	買い物やドライブ、馴染みの美容室に出掛けたりして、人や場所との関係が途切れないよう支援している。また、知人などが来訪しやすいよう、職員の接遇に注意を払い、部屋を開放しプライバシーに配慮したり湯茶の接待をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性などを職員が理解し、孤立しないよう又寛げるよう声かけや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、機会を作り訪ねるなどして良好な関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、一人ひとりに対しその人らしく過ごせるよう把握し、安心して楽しく暮らせるよう検討している。本人の確認が困難の場合は、面会時などに家族と検討を行っている。	日常の会話の中から一人ひとりの思いや意向を聞いたり、表情や仕草などから思いをくみ取り、思いを発せられない場合は、家族が面会に訪れた時や電話などで聞き取りを行い、職員会議の中で情報を共有し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴を把握し、使い慣れた家具などの必需品を居室に置くなど、環境を整え継続できるよう支援している。家族の面会時などを利用し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状況を把握し、それぞれにあったケアを行うように努めている。又、本人の有する能力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に職員全員でモニタリングを行いそれぞれの気づきと対応を話し合い反映に努めている。	毎月職員会議の中でモニタリングを行って、家族と話し合い、利用者の状態に合わせた介護計画を作成している。また、新たな要望があったり状態が変化した場合は、その都度介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに個別記録を用意し、生活記録や食事量、排泄のリズムなどを記入し、情報を共有しながら新たな気づきに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせ、利用者や家族の要望点ニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店を利用したり、小中学校や公民館との関わりを持ち、又地域の景観や民生委員とも情報を交換し、連携に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を結んでおり、定期的な往診に加え、いつでも適切な医療が受けられるようにしている。かかりつけ医との継続支援も行っている。	利用者、家族の希望で医療機関を選べ、かかりつけ医と協力医の連携もあり、情報を共有しながら適切な医療が受けられるよう支援し、受診結果も共有されている。また、24時間オンコールと往診体制も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、介護職が情報交換を行い、常に適切な受診や看護が出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、家族、主治医、看護師、相談員と話し合いながら、退院後の受け入れを整える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状況の変化は家族へ報告し、重度化した場合にはホームで出来ることをあらかじめ伝えと共に本人、家族の希望にも沿ったケアになるように話し合うことにしている。看取りに関する指針を作成中である。	これまでの「重度化した場合の対応指針」の見直しを行い、事業所で出来るケアを反映した、重度化や終末期に向けた対応指針を作成し、利用者、家族に説明して理解を頂くよう取り組みを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生法やAEDの使用法を定期的に学び、ミーティング時に看護師を交え急変時の対応について話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に自主避難訓練を行い、年に一回から二回の消防署員立会いの講習を受けている。	火災を想定した避難訓練を地域の協力を得て実施している。消防署立ち会いの訓練は3月に予定しているが、夜間や風水害などを想定した訓練は実施されていない。なお、非常災害時の備蓄品は準備されている。	昼夜を問わず、火災だけでなく地震や風水害などを想定した訓練を、年間計画を立て地域の協力を得ながら、数多く実施できるよう検討して欲しい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いに注意しながら、一人ひとりの生活暦や性格にあった言葉かけを行うよう努めている。	利用者一人ひとりに気を配りながら、その人に合わせ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、利用者本人の希望や考えを自由に表現できるような接し方に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の本人の気持ちを尊重して希望にこたえられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、おしゃれや身だしなみを大切に生活が明るく楽しくなるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	栄養士によるバランスの取れた献立を提供し、買物や後片付けを一緒におこなっている。	法人の栄養士が献立を作成しているが、食材の購入や下準備、盛りつけ、片付けを職員と一緒にやり、収穫した野菜等を活用しながら、楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により計算されている。食事量を記録しこまめな水分摂取に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助や声かけが必要な方への介助や自分でできる方には、継続できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促せるよう声かけ、誘導をおこなっている。	排泄チェック表により、利用者の排泄パターンを把握し、羞恥心や自尊心を損ねない声かけと誘導を行い、出来るだけトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄の確認を行い、適度な運動、水分摂取に気を配り便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴の希望を伺い、順番やタイミングを調整しながら支援している。	週4回程度を目標に入浴を実施している。また、入浴は本人の希望や体調に配慮し、順番やタイミングを考慮した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。体調、表情、状況に応じて声かけ誘導し休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。服薬に置けば、職員が名前を確認し手渡しで服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力が発揮できるよう負担にならない程度の仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。外出の機会の提供も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の天気や体調を考慮してドライブや散歩、買物に出掛けている。季節に合った行事への参加提供を行っている。	散歩や食材購入、季節に応じた名勝地へのドライブ、初詣や同法人施設の行事などへの外出支援をしている。また、家族の協力を得て、外食や外泊、なじみの理髪店へ出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談した上で、お金を持っていた方が安心される方のみ、手元に小額所持して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族や知人に電話や手紙が出せるよう支援している。家族から電話があった時は、本人につないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に温度計、湿度計が設置しており、常に気を配っている。ホーム内の飾りつけも季節を感じられるようにしている。中庭に花を植え居心地良く感じられるようにしている。	共用空間は温度・湿度管理がされ、壁には季節を感じさせる共同作品や、家族の切り絵作品等を飾り、田園風景を眺めながら居心地良く過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室、ホールのソファ、それぞれのテーブル、ウッドデッキなど自由に気のあった同士で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	本人や、家族と相談しながら、自宅で使用していたベッド、家具、写真などを持って来ていただきその人らしい居心地の良い空間になるよう支援している。	洋室・和室があり、利用者は衣装ケースや使い慣れた椅子、机を持ち込み、家族写真やぬいぐるみを飾り、居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に、持っている能力を生かし生活できるような環境作りに努めている。		